

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)	
		<b>第1部 総則</b>	<b>第1部 総則</b>	
103	1	競技委員長、審判長、DOSおよび審判員は競技に参加しないものとする。	<u>競技委員長、審判長、DOSは他の競技役員と兼務しないものとする。</u> 競技委員長、審判長、DOSおよび審判員は競技に参加しないものとする。	
103	2	4	第106条、第130条、第131条1項(5)、第206条9項、第208条4項(1)、第209条、第215条5項、第217条1項(6)、第335条2項、第349条2項および同3項の規程を遂行する。	第106条、第130条、第131条1項(5)、第206条9項、第208条4項(1)、第209条、第216条5項、 <u>第218条1項(5)</u> 、第335条2項、第349条2項および同3項の規程を遂行する。
103	4	3	審判長は、審判員が行った決定のうち、誤りであると認められるものを正すことができる。ただし、215条1項および4項に記載されている異議申立対象外の事項については、正すことはできないものとする。	審判長は、審判員が行った決定のうち、誤りであると認められるものを正すことができる。ただし、 <u>第216条1項</u> および4項に記載されている異議申立対象外の事項については、正すことはできないものとする。
103	4	4	本条5項(7)、(10)、第131条1項(5)、第206条9項、第207条7項、第209条、第210条1項、第217条1項(6)、第334条、第335条、第337条、第344条および第349条3項の規程を遂行する。	本条5項(7)、(10)、第131条1項(5)、第206条9項、第207条7項、第209条、 <u>第218条1項(5)</u> 、第334条、第335条、第337条、第344条および第349条3項の規程を遂行する。
103	6	DOSの任務は、次のとおりとする。 本条第5項(7)、(9)、第125条5項、第131条、第206条2項(3)、同9項、第207条2項(1)、同3項、同4項(1)、同6項(2)、第208条2項(6)、 <del>同3項、第209条7項、第214条4項、第326条1項</del> および第344条の規程を遂行する。	DOSの任務は、次のとおりとする。 本条第5項(7)、(9)、第125条5項、第131条、第206条2項(3)、同9項、第207条2項(1)、同3項、同4項(1)、同6項(2)、第208条2項(6)、第326条1項および第344条の規程を遂行する。	
103	9	1	主催者配置のスコアラーは競技に参加せず、矢の得点に関する討議にも参加することができない。 <del>フィールドアーチェリーではグループごとに2名の競技者をスコアラーに指名する。</del>	主催者配置のスコアラーは競技に参加せず、矢の得点に関する討議にも参加することができない。
105	3	(新規)	<u>審判員は、競技中いつでも競技者の用具検査を行うことができる。</u>	
105	4	(第105条3項から移動)	用具検査時、本競技規則に違反するものが見つかったときには、審判員は、用具の改修または交換を要求することができる。	
107		スポーツとしてのアーチェリー競技を、次の競技種目に分ける。 ・アウトドアアーチェリー ・インドアアーチェリー	スポーツとしてのアーチェリー競技を、次の競技種目に分ける。 ・アウトドア <u>ターゲット</u> アーチェリー ・インドア <u>ターゲット</u> アーチェリー	
108	1	種別(クラス)を、次のように分ける。 … <del>→パラアーチェリー(第2部第19章パラアーチェリー参照)</del>	種別(クラス)を、次のように分ける。 … (削除)	
108	10	競技会は、U15、U18、U21、一般および50+の種別を分けることなく、女子および男子の種別のみとし、あるいはさらに細分化した年齢区分を採用することができる。また、国内競技会においては、小学生・中学生・高校生の部門を設けるなど、開催要項等で制限することができる。	競技会は、U15、U18、U21、一般および50+の種別を分けることなく、女子および男子の種別のみとし、あるいはさらに細分化した年齢区分を採用することができる。また、国内競技会においては、小学生・中学生・高校生の部門を設けるなど、開催要項等で <u>指定</u> することができる。	
109	2	ターゲットアーチェリー(第2部を参照) … <del>スタンダードボウ部門(スタンダードボウのみ)</del>	ターゲットアーチェリー(第2部を参照) … (削除)	
109	3	フィールドアーチェリー(第3部を参照) <del>選手権大会として</del>	フィールドアーチェリー(第3部を参照) (削除)	
109	6	パラアーチェリー(第2部第19章参照) ・リカーブ部門 ・コンパウンド部門	パラアーチェリー(第2部第19章参照) ・パラリカーブ部門 ・パラコンパウンド部門 <u>・W1部門</u> <u>・VI(視覚障がい)部門</u>	
109	8	競技者は同じ競技会の異なる部門に参加することができるが、その競技者を考慮して競技会のプログラムが修正されることはない。	競技者は同じ競技会の異なる部門に参加することができるが、その競技者を考慮して競技会のプログラムが修正されることはない。 <u>複数の部門に参加する競技者は各部門の予選ラウンドをすべて行射しなければならない。</u>	
110		(新規)	リカーブ高校生女子・男子、リカーブ中学生女子・男子、リカーブ小学生女子・男子、ベアボウ50+女子・男子、パラアーチェリーの各部門にU21を追加。	
111	1	1	競技者は、グループに分かれて一連のマッチを行い、各マッチは、リカーブおよびベアボウでは3射5セットで、コンパウンドおまびW1では3射5エンドで行う。	競技者は、グループに分かれて一連のマッチを行い、各マッチは、リカーブおよびベアボウでは3射5セットで、コンパウンドでは3射5エンドで行う。
111	1	2	個人戦ファイナルラウンドは、イリミネーションラウンドを勝ち残った上位8名が参加し、各マッチは、リカーブおよびベアボウでは3射5セットで、コンパウンドおまびW1では3射5エンドで行う。	個人戦ファイナルラウンドは、イリミネーションラウンドを勝ち残った上位8名が参加し、各マッチは、リカーブおよびベアボウでは3射5セットで、コンパウンドでは3射5エンドで行う。(第19章パラアーチェリーに移動)
111	1	3	各マッチは、リカーブおよびベアボウでは6射(各競技者が2射)4セットで、コンパウンドおまびW1では6射(各競技者が2射)4エンドの合計得点制で行う。	各マッチは、リカーブおよびベアボウでは6射(各競技者が2射)4セットで、コンパウンドでは6射(各競技者が2射)4エンドの合計得点制で行う。

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)	
111	1	4	パラアーチェリーのダブルスイリミネーションラウンドは予選ラウンドの2名の得点合計の順位により、上位24チームが出場し、その順位に従ってマッチプレイチャートに割り付ける（付則1：図14マッチプレイチャート5参照）。各マッチは、リカーブオープンでは4射（各競技者が2射）4セットで、コンパウンドオープンおよびW1では4射（各競技者が2射）4エンドの合計得点制で行う。	(第19章パラアーチェリーに移動)
111	1	4	団体戦ファイナルラウンドはイリミネーションラウンドを勝ち残った4チームが参加し、各マッチは、リカーブおよびベアボウでは6射（各競技者が2射）4セットで、コンパウンドおよびW1では6射（各競技者が2射）4エンドの合計得点制で行う。	団体戦ファイナルラウンドはイリミネーションラウンドを勝ち残った4チームが参加し、各マッチは、リカーブおよびベアボウでは6射（各競技者が2射）4セットで、コンパウンドでは6射（各競技者が2射）4エンドの合計得点制で行う。
111	1	6	パラアーチェリーのダブルスファイナルラウンドはイリミネーションラウンドを勝ち残った4チームが参加し、各マッチは、リカーブオープンでは4射（各競技者が2射）4セットで、コンパウンドオープンおよびW1では4射（各競技者が2射）4エンドの合計得点制で行う。¥n¥n交互射ちでは、ダブルスは2射（1人1射）した後、相手チームと交代する。交互射ちの実施は、主催者の判断による。W1は、第221条3項参照。	(第19章パラアーチェリーに移動)
111	1	5	各マッチは、リカーブおよびベアボウでは4射（各競技者が2射）4セットで、コンパウンドおよびW1では4射（各競技者が2射）4エンドの合計得点制で行う。	各マッチは、リカーブおよびベアボウでは4射（各競技者が2射）4セットで、コンパウンドでは4射（各競技者が2射）4エンドの合計得点制で行う。
111	1	6	W1は、第221条3項参照。	(第19章パラアーチェリーに移動)
111	1	7	チームは、予選ラウンドの上位3名の競技者（ミックス団体→ダブルスは2名）で構成する。	チームは、予選ラウンドの上位3名の競技者（ミックス団体は2名）で構成する。
111	3		60mラウンド（リカーブ：U18および50+）は、距離60mで122cm標的面を使用し、72射する。	60mラウンド（リカーブ：U18および50+、 <u>高校生</u> ）は、距離60mで122cm標的面を使用し、72射する。
111	4		70mラウンド（リカーブ）は、距離70mで122cm標的面を使用し、72射する。	70mラウンド（リカーブ：男女、 <u>高校生</u> ）は、距離70mで122cm標的面を使用し、72射する。
111	8		(新規)	リカーブ中学生の30mラウンドは、距離30mで80cm標的面または80cm6リング標的面を使用し、1エンド3射または6射で72射する。
111	9		(新規)	リカーブ小学生の18mラウンドは、距離18mで80cm標的面または80cm6リング標的面を使用し、1エンド3射または6射で72射する。
111	12		視覚障害者ラウンドは、第2部第19章パラアーチェリー参照。	<u>パラアーチェリー</u> は、第2部第19章パラアーチェリー参照。
112	3		視覚障害者ラウンドは、第2部第19章パラアーチェリー参照。	<u>パラアーチェリー</u> は、第2部第19章パラアーチェリー参照。
115	1		第30章 クラウトアーチェリー参照。	第30章 <u>その他のアーチェリーラウンド</u> 参照。
116	1		第30章 フライトシューティング参照。	第30章 <u>その他のアーチェリーラウンド</u> 参照。
119	3	(2)c	中学生によって構成される団体（チーム） （所在する単一中学校の在生で編成された団体）	中学生によって構成される団体（チーム） （所在する単一中学校の在生で編成された団体、 <u>都道府県または市区町村アーチェリー協会（連盟）、アーチェリークラブチーム、スポーツ少年団その他の地域団体に所属する中学生で編成された団体</u> ）
119	3	(2)d	小学生によって構成される団体（チーム） （所在するスポーツ少年団およびクラブチームで、小学生で編成された団体）	小学生によって構成される団体（チーム） （ <u>所在する単一小学校の在生で編成された団体、都道府県または市区町村アーチェリー協会（連盟）、アーチェリークラブチーム、スポーツ少年団その他の地域団体に所属する小学生で編成された団体</u> ）
121	3		パラアーチェリーは、第2部第19章参照。	パラアーチェリーは、第2部第19章 <u>パラアーチェリー</u> 参照。
124	2		ウェイトングラインは、シューティングラインの後方、アウトドアでは5m以上、インドアでは3m以上の位置に設置する。メディアラインはウェイトングラインの前方1mの位置に設置する。必要ときには、ダブルウェイトングライン等を設置することができる。	ウェイトングラインは、シューティングラインの後方 <u>3m</u> 以上の位置に設置する。メディアラインを <u>設置する場合はシューティングラインの後方3m以上の位置に設置し、この場合ウェイトングラインは後方4m以上の位置に設置する。</u>
124	3		新規	<u>用具ラインは、ウェイトングラインの後方4m以上の位置に設置し、ウェイトングラインと用具ラインの間に選手は用具を置くことができる。なお、スペースが限られている場合は、より少ないスペースが許可される。行射中にコーチは用具ラインの後方に留まらなければならない。</u>
124	8		2名またはそれ以上の競技者が同じ標的を同時に行射する場合、シューティングライン上に行射する位置の印または行射するスペースが示され、1競技者についてインドアラウンドでは最低80cm、アウトアラウンドでは最低90cmの間隔が確保されなければならない。（※パラアーチェリーについては、第225条4項参照）	2名またはそれ以上の競技者が同じ標的を同時に行射する場合、シューティングライン上に行射する位置の印または行射するスペースが示され、1競技者についてインドアラウンドでは最低 <u>70</u> cm、アウトアラウンドでは最低90cmの間隔が確保されなければならない。（※パラアーチェリーについては、第 <u>222</u> 条4項参照）
124	10		シューティングライン前方3mの位置に3mラインを設置する。	シューティングライン前方3mの位置に3mラインを設置する。 <u>ラインの幅は3mのエリア内とする。</u>
124	14		団体戦では、シューティングラインの手前1mに、明瞭なラインを設置する。このラインは、3cm以上の幅とする。	団体戦では、シューティングラインの手前1mに、明瞭なラインを設置する。このラインは、3cm以上の幅とする。 <u>ラインの幅は1mエリアの内とする。</u>

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
125	2	(2) インドアの標的面は、以下の10種類である。 …	インドアの標的面は、以下の <u>13</u> 種類である。 … ・40cm縦二つ目標的面 ・40cm-R縦二つ目標的面 ・40cm-C縦二つ目標的面
125	6	(7) アウトドアでは、風向きを知るために軽い材料で作られたよく見える色（黄色など）の風見旗を各標的の中央に設置する。その位置はバットまたは標的番号板のいずれか高い方の上端から40cm上方とする。この旗の大きさは、25cm以上で30cm以下とする。	アウトドアでは、風向きを知るために軽い材料で作られたよく見える色（黄色など）の風見旗を各標的の中央に設置する。 <u>この旗はシューティングラインからはっきり視認できるようにする。</u>
125	6	(9) DOSのための席が設けられた一段高い台またはテント等。	<u>競技場内の選手、的、審判員の視界を妨げないはっきりと見渡せる</u> DOSのための席が設けられた一段高い台またはテント等。
125	6	(11) ファイナルラウンドの会場または主会場のファイナルエリア以外では、全競技者、チームの監督、コーチおよびその他競技役員のために、ウェイティングラインの後方に十分な数の椅子を設置する。	ファイナルラウンドの会場または主会場のファイナルエリア以外では、全競技者、チームの監督、コーチおよびその他競技役員のために、 <u>用具</u> ラインの後方に十分な数の椅子を設置する。
127	1	(1) その他の得点帯は黒色で、太さ1mm以下の白線で4個の得点帯に分割される。黄色帯と黒色帯の間に分割線はない。 …	その他の得点帯は黒 <u>またはティール</u> 色で、太さ1mm以下の白線で4個の得点帯に分割される。黄色帯と黒 <u>またはティール</u> 色帯の間に分割線はない。 … <u>黄色帯と黒またはティール色帯の組み合わせは主催者が選択できるが、競技中のすべての標的面は同じ組み合わせとする。</u>
128	1	(7) 行射の距離表示は一切行わない。	行射の距離表示は一切行わない。
128	1	(9) シューティングベグが空いたとき、グループは標的の絵のあるシューティングベグまで前進することができる。 <u>ここが、標的が空くまでの第2の待機場所となる。</u>	シューティングベグが空いたとき、グループは標的の絵のあるシューティングベグまで前進することができる。
		<b>第2部 ターゲットアーチェリー</b>	<b>第2部 ターゲットアーチェリー</b>
201		本競技規則に違反する用具の使用が発見された競技者は、得点は無効になる場合がある。	本競技規則に違反する用具の使用が発見された競技者は、 <u>失格となり獲得した順位を失う。</u>
202	1	ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが常に競技者の手または手首に接してはならない。	ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが <u>フルドロース中およびエイミング中は常に競技者の身体のいかなる部分にも</u> 接してはならない。
202	6	(1)b 弓以外の物に触れていないこと。	<u>フルドロース中およびエイミング中は常に競技者の身体のいかなる部分にも</u> 触れていないこと。
202	7	-1 シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、その長さがノックの溝から計測して2.2cm以内であれば、この制限に該当しない）を超えてはならない。	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、 <u>この制限に該当しないが、その長さはノックの溝から計測して2.2cm以内でなければいけない</u> ）を超えてはならない。
202	7	-1 各競技者の矢には、シャフトに競技者の名前またはイニシャルを書き、同じエンドで使用するすべての矢は、同じ色のシャフト、同じ形状および色の組み合わせの羽根、同じ色のノックとし、クレストを付けるときには同じ色の組み合わせの模様とする。	各競技者の矢には、シャフト <u>またはアローラップ</u> に競技者の名前またはイニシャルを書き、同じエンドで使用するすべての矢は、同じ色のシャフト、同じ形状および色の組み合わせの羽根、同じ色のノックとし、クレストを付けるときには同じ色の組み合わせの模様とする。
202	9	的を狙わない側の目および／または眼鏡を覆う必要がある場合、プラスチック、フィルムまたはテープを使用することができる。また、アイパッチを使用することができる。	的を狙わない側の目および／または眼鏡を覆う必要がある場合、プラスチック、フィルムまたはテープを使用することができる。また、アイパッチを使用することができる。 <u>覆ったものは明確な目印の線を作ってはならない。</u>
202	10	次の用具は使用することができる。 アームガード、チェストガード、ボウリング、フィンガースリング、ベルトクイバー、ヒップクイバー、グランドクイバー。	次の用具は使用することができる。 アームガード、チェストガード、ボウリング、フィンガースリングに <u>加え、ベルト、背中、ヒップに装着したクイバー、または地面に設置したグランドクイバーを含む。</u>
203	1	(2) ケーブルガードは使用することができる。	(削除)
203	1	(2) ブレース付きのハンドル、スプリット・ケーブルは使用することができる。ただし、それらが常に競技者の手または手首に接してはならない。	ブレース付きのハンドル、スプリット・ケーブルは使用することができる。ただし、それらが <u>フルドロース中およびエイミング中は常に競技者の身体のいかなる部分にも</u> 接してはならない。
203	1	(3) 弦（ボウストリング）は、どのような形状のものも使用することができ、ノッキングポイントを付けるためのサービングを巻くこと、さらに、リップマーク（例：キッサーボタン）、ノーズマーク、ピープホール、ピープホールホルドインライン装置はそれぞれ1個、Dループボウストリング、ストリングサイレンサー、ボウストリングウェイトおよびその他の付属品を付着物として弦に付けることが許される。 <u>ただし、それらの付属品は電氣的または電子的な装置を組み込んでいてはならない。</u>	弦（ボウストリング）は、どのような形状のものも使用することができ、ノッキングポイントを付けるためのサービングを巻くこと、さらに、リップマーク（例：キッサーボタン）、ノーズマーク、ピープホール、ピープホールホルドインライン装置はそれぞれ1個、Dループボウストリング、ストリングサイレンサー、ボウストリングウェイトおよびその他の付属品を付着物として弦に付けることが許される。
203	1	スタビライザーは使用することができる。ただし、弓以外の物に触れていないこと。	スタビライザーは使用することができる。ただし、 <u>フルドロース中およびエイミング中は常に競技者の身体のいかなる部分にも</u> 触れていないこと、 <u>および他の競技者の危険や妨げとならないこと。</u>
204	1	(2) ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが常に競技者の手または手首に接してはならない。	ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが <u>フルドロース中およびエイミング中は常に競技者の身体のいかなる部分にも</u> 接してはならない。

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
204	6 (1)	振動吸収用のダンパーは使用することができる。 <del>それらは製造業者によってライザーに組み込まれているものか、市販品のダンパーをライザーまたはおもりに直接取り付けられたものを指す。</del> いかなるおもりと衝撃吸収用のダンパーの組み合わせも曲げることなく内径12.2cm(±0.5mm)のリングを通り抜ければならない。 <del>製造業者によってライザーに取り付けられたスタビライザー用の挿入孔の使用は許されるが、角度のついたブラケットやコネクターの取り付けは許されない。</del> おもりおよびダンパーはライザーのグリップの下と上に付けてもよいが、決して競技者の照準の助けにはならない。	振動吸収用のダンパーは使用することができる。いかなるおもりと衝撃吸収用のダンパーの組み合わせも曲げることなく内径12.2cm(±0.5mm)のリングを通り抜ければならない。おもりおよびダンパーはライザーのグリップの下と上に付けてもよいが、決して競技者の照準の助けにはならない。
204	7 (1)	シャフトの最大直径は9.3mm(アローラップが使用される場合、その長さがノックの溝から計測して22cm以内であれば、この制限に該当しない)を超えてはならない。	シャフトの最大直径は9.3mm(アローラップが使用される場合、 <u>この制限に該当しないが、その長さはノックの溝から計測して22cm以内でなければいけない</u> )を超えてはならない。
204	9	的を狙わない側目および/または眼鏡を覆う必要がある場合、プラスチック、フィルムまたはテープを使用することができる。また、アイパッチを使用することができる。	的を狙わない側目および/または眼鏡を覆う必要がある場合、プラスチック、フィルムまたはテープを使用することができる。また、アイパッチを使用することができる。 <u>覆ったものは明確な目印の線を作ってはならない。</u>
205			(本条は記載内容を整理し全面改訂)
205	1 (2)	(新規)	<u>競技者が的中位置を紙に記載するような機能を有する単純なソフトウェアを実行するために、携帯電話のようなモバイル機器をウェイトングラインの前方で使用することができる。また、競技者が的中位置やスコアカードを撮影するために使用することもできる。</u>
205	3 (1)	(新規)	<u>競技者は上記の用具、付属品を含む2セットの弓を持ち込むことができる。ただし、スコープは除外される。</u>
205	3 (2)	(新規)	<u>チーム役員はチーム用の用具を収納したベルトパックに加え、双眼鏡またはスコープを携帯できる。</u>
206	1 (1)	1440ラウンドは、1日または連続した2日間で行う。ラウンドを2日間で行う場合、1日目に長い2つの距離を、2日目に短い2つの距離を、またはその逆で行う。	(削除)
206	1 (2)	ダブル1440ラウンドは、連続した2日間または4日間で行う。	(削除)
206	2 (3)	ただし、補充矢を行射する時間は最大15分(通常の行射手順および行射時間による)もしくは、エンド数でアウトドアでは6本の2エンド、インドアでは3本の3エンドとし、どちらか早く完了する方法で行う。	ただし、補充矢を行射する <u>最大</u> 時間は約15分(通常の行射手順および行射時間による)もしくは、エンド数でアウトドアでは6本の2エンド、インドアでは3本の3エンドとし、 <u>どちらを選択するかは主催者が決定する。</u>
206	2 (6)	競技場での個人戦のバイ(または不戦勝)の競技者の練習は、1エンド3本と制限し、リカーブおよびベアボウは3セット、コンパウンドは5エンドまでとする。団体戦では、1エンド6本(各競技者2本)とし、リカーブおよびベアボウは3セット、コンパウンドは4エンドまでとする。	競技場での個人戦のバイ(または不戦勝)の競技者の練習は、1エンド3本と制限し、リカーブおよびベアボウは3セット、コンパウンドは5エンドまでとする。団体戦では、1エンド6本、 <u>ミックス団体戦では4本</u> (各競技者2本)とし、リカーブおよびベアボウは3セット、コンパウンドは4エンドまでとする。
206	4	障害を持つ者を除き、競技者は、支持物を用いることなく、シューティングラインの真上から体を起立した状態で行射する。	障害を持つ者を除き、競技者は、支持物を用いることなく、 <u>フルドロー時に頭がシューティングラインの真上に位置するように起立して</u> 行射する。
206	5 (1)b	標的の面またはバットレスが風で吹き飛ばされたとき、審判員は、必要と判断した場合、該当する矢数に応じて行射時間を与える。 <del>バットレスが滑り落ちただけの場合、その措置は審判員の判断に一任される。</del>	標的の面またはバットレスが風で吹き飛ばされ、 <u>審判員が矢の得点を判断できない場合、審判員は必要な措置を講じたうえで、</u> 該当する矢の本数に応じて行射時間を与える。
206	6	オリンピックラウンド団体戦では同一チームの3競技者とチームの監督は、シューティングライン上にいるか否かにかかわらず、お互いに助言を与え合うことができる。行射の間、コーチは、コーチボックスの中からのみコーチできる。	オリンピックラウンド団体戦 <u>およびミックス団体戦</u> では同一チームの競技者とチームの監督は、シューティングライン上にいるか否かにかかわらず、お互いに助言を与え合うことができる。行射の間、コーチは <u>1名のみ主催者が指定した区域から</u> コーチできる。 <u>競技者およびコーチが使用できるスコープは1台だけである。</u>
206	8	競技者エリア内およびそれに面した場所で喫煙(電子タバコを含む)してはならない。	競技者エリア内およびそれに面した場所で喫煙( <u>V A P E</u> 、電子タバコを含む)してはならない。
206	10	競技者は、シューティングライン上にあるとき以外は、矢がつかえてあるか否かにかかわらず弓を引いてはならない。弓に矢がつかえられているときには、標的の前方および後方の安全を確認した後にのみ、標的に向かって弓を引くことができる。	競技者は、シューティングライン上にあるとき以外は、矢がつかえてあるか否かにかかわらず弓を引いてはならない。 <u>弓を引くときは常に弓が自分の標的に向いていなければならない。</u>
207	3 (1)c	パラアーチェリーの個人戦においては、上記いずれの場合にも1射につき10秒加算する。	(削除・第19章パラアーチェリーの第232条に移動)
207	4 (2)	行射を表示板で管理する場合、2個の表示板(全面が黄色または緑色)は、競技場の両側に同時に同じ面が見えるようにする。黄色面は制限時間が残り30秒になったときに競技者に対して表示する。緑色面はその他の時間帯に表示する。	(削除)
207	5 (2)	10秒経過後、最初の競技者の20秒、 <del>パラアーチェリーの競技会では30秒</del> の行射時間を合図する1声の音響信号を与える。	10秒経過後、最初の競技者の20秒の行射時間を合図する1声の音響信号を与える。

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
207	8	競技中は、行射の順番にあたる競技者のみがシューティングラインに立つことができるが、 <del>車椅子競技者等はシューティングライン上に残ってもよい。</del> 他の競技者の妨げにならなければ、スコープ等をシューティングライン上に残しておいてもよい。	競技中は、行射の順番にあたる競技者のみがシューティングラインに立つことができる。他の競技者の妨げにならなければ、スコープ等をシューティングライン上に残しておいてもよい。
208	1	(5)b 4セットマッチで5ポイント <del>(8ポイントの内5ポイント)</del> 以上に達したチームは勝者となり、次の対戦に進む。	4セットマッチで5ポイント以上に達したチームは勝者となり、次の対戦に進む。
208	1	(7) 競技者自身が標的にいけない場合、その競技者は、チームの監督、同じ標的の他の競技者またはその競技者の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる <del>(例：障害のある競技者)</del> 。	競技者自身が標的にいけない場合、その競技者は、チームの監督 <del>およびコーチ</del> 、同じ標的の他の競技者またはその競技者の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる。
208	2	(2) 規定の本数を超える矢が、標的上、標的付近の地上(床上)またはシューティングレーン内の地上(床上)で発見されたときには、得点の低い方から3本(場合によっては6本)の矢の得点のみを記録する(3mライン以内を除く)。競技者またはチームがこれを繰り返した場合、失格とする。	規定の本数を超える矢が、標的上、標的付近の地上(床上)またはシューティングレーン内の地上(床上)で発見されたときには、得点の低い方から3本(場合によっては <u>4本または6本</u> )の矢の得点のみを記録する(3mライン以内を除く)。競技者またはチームがこれを繰り返した場合、失格とする。
208	2	(2)b インディア競技で、三つ目標的面が使用されているときには、矢をどのような順番で行射してもよいが、同じ得点帯に2本以上の矢が的中したときには、その2本の矢(または3本の矢)はそのエンドの矢数に含め、最も低い矢の得点のみを記録する。その得点帯の他の矢はM(ミス)と採点する。最外側の淡青色の6点の得点帯からはずれた矢は、M(ミス)と採点する。 <del>(第208条1(6)から移動)</del>	インディア競技で、三つ目標的面が使用されているときには、矢をどのような順番で行射してもよいが、標的面の同じ <u>リング面(スポット)</u> に2本以上の矢が的中したときには、その2本の矢(または3本の矢)はそのエンドの矢数に含め、最も低い矢の得点のみを記録する。 <u>そのリング面の他の矢はM(ミス)と採点する。</u> 最外側の淡青色の6点の得点帯からはずれた矢は、M(ミス)と採点する。
208	2	(3) <del>(第210条6から移動)</del>	団体戦で、ある競技者が2本の矢を行射できなかった場合、未発射矢もそのエンドの矢とみなし、M(ミス)と採点する。未発射の矢を含め、そのエンドの合計本数が6本(または4本)を超えた場合、本条2項(2)を適用する。
208	2	(5) 競技者は矢を得点記録し、標的面から抜き取る前に、得点帯にあるすべての矢の的中孔に適切な印を付けなければならない。	競技者は矢を得点記録し、標的面から抜き取る前に、得点帯にあるすべての矢の的中孔に適切な印を付けなければならない。 <u>印の線の長さは5mmを超えない。</u>
208	2	(7)b バットレスを完全に貫通した矢は、すべての矢の的中孔に印が付けられていて、印のない的中孔が確認できるときは、標的面のその的中孔によって得点を記録する。その標的の全競技者は、審判員とともに標的に進む。	バットレスを完全に貫通した矢は、すべての矢の的中孔に印が付けられていて、印のない的中孔が確認できるときは、標的面のその的中孔によって得点を記録する。 <u>ただし、矢の位置が的中の後方にあり矢が実際に通り抜けたこと、印のない的中孔が確認できることを審判員が判定する。</u>
208	3	<del>DOSは、</del> 得点記録の終了後、行射再開の合図を与える前に、標的面に矢が残っていないことを確認する。	得点記録の終了後、行射再開の合図が与えられる前に、標的面に矢が残っていないことを <u>競技者の責任において</u> 確認する。
208	3	(1) もし、気付かずに矢が残っていても、行射は中断されない。競技者は、そのエンドを他の矢で行射するか、またはその距離の行射が終了した後、不足する矢を補充することができる。このような場合、審判員はそのエンドの得点記録に参加し、標的から矢が抜き取られる前に標的に残した矢を確認し、その競技者のスコアカードと照合する。	もし、気付かずに矢が残っていても、行射は中断されない。競技者は、 <u>行射の前に審判員にその旨報告して、そのエンドを他の矢で行射する。</u> このような場合、審判員はそのエンドの得点記録に参加し、標的から矢が抜き取られる前に標的に残した矢を確認し、その競技者のスコアカードと照合する。
208	3	(2) 競技者が矢を置き忘れてきた場合、行射の前に審判員にその旨報告して、他の矢を使用することができる。	(削除)
208	4	スコアカードにスコアラールと競技者が署名することによって、競技者がそれぞれの矢の得点、合計点、10点数、X数(またはインディアでは9点数)に同意したことを示す。	<u>競技者は自らのスコアカードに最終的な責任を持つ。</u> スコアカードにスコアラールと競技者が署名することによって、競技者がそれぞれの矢の得点、合計点、10点数、X数(またはインディアでは9点数)に同意したことを示す。
208	4	(1) 主催者または競技役員は、提出されたスコアカードの正確性を確認する必要があるが、提出時に主催者または競技役員が間違いもしくは署名のないものを発見した場合、競技者に間違いを訂正するように促し、訂正された結果は有効となる。主催者は、競技者からスコアカードが提出されるときに、間違いや署名のないことを確認することはできるが、義務ではない。 <del>競技者は自分のスコアカードに対して最終的な責任を有し、手書きのスコアカードが提出されていない、もしくは競技者の署名がなく提出され、そのとき修正されていない、その競技者の記録(個人、団体およびミックス団体)は競技委員長により無効となる。スコアカードの修正は、その競技会の次のステージまでに行われなければならない。</del>	主催者または競技役員は、提出されたスコアカードの正確性を確認する必要があるが、提出時に <u>競技委員長または記録担当</u> が間違いもしくは署名のないものを発見した場合、競技者に間違いを訂正するように促し、訂正された結果は有効となる。主催者は、競技者からスコアカードが提出されるときに、間違いや署名のないことを確認することはできるが、義務ではない。 (削除)
208	5	(1)a-i ・10点の数の最も多いもの <del>(インナー10を含む)</del> 。 ・X(インナー10)の数の最も多いもの。	・ <u>X</u> の数の最も多いもの。 ・ <u>10点</u> の数の最も多いもの。
208	5	(2) イリミネーションラウンドへの進出、マッチ戦の同点、または上位8名への進出を決めるとき(第1部総則：付則1マッチプレイチャートの図9：マッチプレイチャート1A、図10：マッチプレイチャート1Bまたは図14：マッチプレイチャート5を使用する場合)に同点の場合、シュートオフでこれを解消する(10点数、X数(またはインディアでは9点数)を考慮しない)。	イリミネーションラウンドへの進出、マッチ戦の同点、または上位8名への進出を決めるとき(第1部総則：付則1マッチプレイチャートの図 <u>20</u> ：マッチプレイチャート1A、図 <u>21</u> ：マッチプレイチャート1Bまたは図 <u>25</u> ：マッチプレイチャート5を使用する場合)に同点の場合、シュートオフでこれを解消する( <u>X</u> 数、 <u>10点数</u> (またはインディアでは10点数、9点数)を考慮しない)。

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

	項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
208	5	(2)a-i	個人戦のとき、行射はフィールド中央に近い、中立の標的を使用し、1競技者1標的とする。コンパウンドでは、バットの中央に80cm-6リング標的面を設置する。	個人戦のとき、行射はフィールド中央に近い、中立の標的を使用し、1競技者1標的とする。 <u>リカーブおよびベアボウでは、バットの中央に122cm標的面を設置する。</u> コンパウンドでは、バットの中央に80cm-6リング標的面を設置する。
208	5	(2)a-i	○リカーブ、 <del>W1(パラ)</del> はチーム毎に1標的に1枚の標的を使用する	○リカーブはチーム毎に1標的に1枚の標的を使用する
208	5	(2)a-i	○コンパウンドミックス、 <del>パラのダブルス</del> は、2枚の標的面を水平に設置する。	○コンパウンドミックスは、2枚の標的面を水平に設置する。
208	5	(2)a-i	○複数の標的面を使用する場合、チームの各競技者がどの標的面を行射するかを決定する。	○複数の標的面を使用する場合、チームの各競技者がどの標的面を行射するかを決定するが <u>1標的に1本ずつ行射する。</u> ○ <u>チームの全競技者は同時に行射する。</u>
208	5	(2)a-i	個人戦のとき、縦三つ目標的面が使用されている場合、競技者は中段を行射する。	個人戦のとき、縦三つ目標的面が使用されている場合、競技者は中段を行射する。 <u>三角三つ目標的面が使用されている場合、競技者は上段を行射する。</u>
208	5	(2)a-i	団体戦のとき、行射はチーム毎に1標的で行う。三角三つ目標的面を使用する場合、下段中心の高さは床から130cmとする。縦三つ目標的面を使用する場合、水平設置に設置する。チームの競技者は、各自がどの標的面を行射するか選択する（それぞれの標的面に1射）。	団体戦のとき、行射はチーム毎に1標的で行う。 <u>縦三つ目標的面や縦二つ目標的面を使用する場合、横長に設置する。</u> チームの競技者は、各自がどの標的面を行射するか選択する（それぞれの標的面に1射）。
208	5	(2)c-i	(新規)	同点が解消されない場合、同点が解消されるまで連続してシュートオフを行う。
208	6		上位8位の競技者（またはチーム）には、個別の順位を付ける。(1)途中敗退した個人・団体の順位は下記により決定する。a 1/8イリミネーションでの敗退は9位。b 1/16での敗退は17位。c 1/24もしくは1/32での敗退は33位。d 1/48での敗退は57位。(2)1/4ファイナル（準々決勝戦）で敗退した競技者（またはチーム）は、下記により決定する。a その対戦がセット制の場合、その対戦で獲得したポイント数で、ポイント数が同数の場合、その対戦の合計得点で最終順位を決定する。b その対戦が合計得点制の場合、その対戦の合計得点で最終順位を決定する。c なお、敗退した競技者の順位を本条5項（1）aの規定により、決定することができる。	<u>競技が終了した時点で、全ての競技者（またはチーム）は、個別に順位を付ける。予選を突破できなかった競技者（またはチーム）については、予選の得点を使用される。イリミネーションラウンドおよびファイナルラウンドを敗退した競技者（またはチーム）は敗退したマッチ戦の規定本数の素点平均点（小数点以下第3位に切り上げ）が順位付けに使用される。規定本数の素点平均点が同点だった場合、その順位のみシュートオフの素点平均点を加えて再比較し順位を決定する。それでも同点の場合は同順位とする。</u>
第14章			規則違反の罰則	規則違反の罰則等 <b>(※条文整理のため全面改訂)</b>
第14章			(新規)	<u>以下は、規則が破られた際に競技者または役員に適用される罰則または制裁の要約である。競技者に対する制裁は、その競技者のコーチまたはチーム役員にも自動的に適用される。</u>
210	1		(第209条3より移動)	<u>アンチ・ドーピング規則の違反を犯したと認められた競技者は、第106条に定められた制裁の対象となる。</u>
210	2		(第213条1より移動)	<u>第106条1項によるアルコール検査が行われ、競技会の終了までに競技者から明確な陽性反応が出た場合、その競技者はその競技会を失格となり、このことは本連盟に報告される。</u>
211	1		(第210条2より移動)	<u>開始を示す合図の前、終了を示す合図の後、または交互射ちの順番を間違えて行射した場合、その矢はそのエンドの矢とみなし、競技者またはチームのそのエンドの最高点を削除し、M（ミス）と採点する。</u>
211	2		(第210条4より移動)	<u>団体戦で、競技者のいずれかが、制限時間を示す合図の前または後に行射した矢は、そのエンドの矢とみなし、チームのそのエンドの最高点を削除し、M（ミス）と採点する。</u>
211	3		(第210条3より移動)	<u>DOSが公式に練習セッションの終了を告げた後（練習矢が抜かれた後）から行射の開始されるまでの間、または各距離やラウンド間の休憩時間中に、意図的か否かに関わらず、行射した場合、その矢は次のエンドの一部とみなし、競技者の次のエンドの最高得点を削除する。</u>
211	4		(第210条9より移動)	<u>二つ目、あるいは、三つ目標的面を使用するとき、同一得点圏内に2本（または全矢）が行射された場合、すべてをそのエンドの一部とみなし、最低得点の矢を採点する。その同一得点圏内の他の矢は、M（ミス）と採点する。</u>
211	5		(第210条7より移動)	<u>交互射ちの団体戦で、ある競技者が所定の本数を超える矢を1mライン後方に戻る前に行射した場合、チームはそのエンドの最高得点の矢を失う。</u>
211	6		(第210条10より移動)	<u>コンパウンドマッチラウンド団体戦で、同じ標的面に3本（ミックス団体戦では2本）を超える矢がある場合、低い方から3本（ミックス団体戦では2本）を採点する。その標的面の他の矢は、M（ミス）と採点する。</u>
212			二度以上の警告を受け、さらに以下の規則を違反し続け、担当審判員の決定および指示（これは申し立てができる）に従わない競技者は、第209条により処分する。	競技者は、以下の項目に違反した場合、警告を受ける。警告を受けた後、規則違反を続ける、あるいは担当審判員の決定および指示に従わない競技者は、 <u>失格となる。</u>
212	3		(第209条5より移動)	<u>1エンドにつき、許された矢数を超えた本数を繰り返し行射したと認められた競技者またはチーム。</u>
212	5		(第209条6(3)より移動)	<u>スコアラーによってその得点を確認される前に標的から矢を抜く行為を繰り返す競技者。</u>
212	6		(第212条5より移動)	<u>標的上のすべての矢が記録されるまで、矢、標的面、またはバットレスに触れてはならないが、それを繰り返し行った場合。</u>

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

	項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
212	7		(第212条3より移動)	<u>行射の進行中、障害が認められた競技者を除き、自分の立番の競技者だけがシューティングラインに立つことができる。</u>
212	8		(第206条8より移動)	<u>競技場または練習場での喫煙、VAPE（電子タバコ）の使用は禁止されている。</u>
213			(新規)	<u>採点が開始された時点で以下のルールに違反したことが判明した競技者は、警告なしに直ちに失格となり、獲得したすべての順位を失う。</u>
213	1		(第209条4より移動)	<u>競技規則に違反する用具を使用していることが判明した競技者。（第10章 競技者の用具参照）</u>
213	2		(第209条6より移動)	<u>規則や規定を意図的（故意）に破ったことが証明された競技者は、大会への参加資格がないと宣言される場合がある。</u>
213	3		(第209条7より移動)	<u>ドローイングテクニック（ハイドロー等）を修正するよう指示された後も、危険なテクニックを使用し続ける競技者。</u>
213	4		(第209条6(2)より移動)	<u>許可なく得点を改ざんした者、得点を偽造した者、または故意に得点を改ざん・偽造させた者。</u>
213	5		(第209条6(1)より移動)	<u>競技者、または競技者を補助しているとみなされる人物による非スポーツマン的な行為。非スポーツマン的な行為は決して容認されない。</u>
214	1		(新規)	<u>以下のいずれかが発生した場合、審判員はイエローカードを挙げる。イエローカードは、その競技者が一旦1mライン手前に戻ってやり直をしなければならない。または、まだ射つべき矢を持っている別の競技者と交代し、その交代した競技者が1m手前からスタートしなければならない。</u>
214	1	1	(第211条1より移動)	<u>チームのメンバーが早すぎるタイミングで1mラインを越えた場合。</u>
214	1	2	(第211条3より移動)	<u>チームのメンバーが、シューティングラインに入る前にクィーバーから矢を完全に抜き出した場合。</u>
214	1	3	(第211条3より移動)	<u>コンパウンドの競技者が、シューティングラインに入る前にリリースエイドを弦に取り付けていた場合。</u>
214	2		(第211条2より移動)	<u>チームがイエローカードの指示に従わず、そのまま競技者が矢を射った場合、チームはそのエンドの最高点を削除される。</u>
215	1	(1)	予選ラウンドの期間中の毎日、最大45分間練習する時間を設けることができる。練習矢が抜かれることにより、練習は終了する。練習用の標的は各種別の最初に行射する距離に設置する。 <u>オリンピックラウンドのイリミネーションラウンドおよびファイナルラウンドを行う日には、主催者は、それぞれの日の予定を勘案して、練習時間の長さを決めることができる。</u>	<u>練習は3エンド設けることができる。練習矢が抜かれることにより、練習は終了する。練習用の標的は各種別の最初に行射する距離に設置する。イリミネーションラウンドおよびファイナルラウンドにおいては、主催者は、大会スケジュールを勘案して、練習時間の長さを決めることができる。また、主催者が事前に情報を公表している場合、練習のエンド数を変更することができる。</u>
215	2		オリンピックラウンド、コンパウンドマッチラウンド、ペアボウマッチラウンドおよびインドアマッチラウンドでは、練習場は、競技会場に並んで設置することができる。イリミネーションラウンドおよびファイナルラウンドでは、競技者は競技中でもここで練習することができる。ただし、主催者は途中敗退した競技者の練習場を準備する必要はない。	<u>マッチラウンドでは、イリミネーションラウンドおよびファイナルラウンドの競技中である競技者が練習することができる練習場を設ける。</u> ただし、主催者は途中敗退した競技者の練習場を準備する必要はない。
215	3		DOSは、公式練習会場には、常に立ち会わなければならない。DOSは、適切な合図により、行射の開始と終了および矢取りを指示する。	<u>すべての練習は、DOSの管理のもとで行う。</u> DOSは、適切な合図により、行射の開始と終了および矢取りを指示する。
215	4		(新規)	<u>練習標的の距離変更は、DOSの事前の許可を必要とする。標的の移動と設置に補助が必要な場合、DOSは競技者に補助を依頼することができる。</u>
216	1		矢が標的から抜かれる前に発見されたスコアカードの記載の間違ひは、その標的のすべての競技者が同意すれば訂正することができる。訂正は、その標的のすべての競技者が確認し、スコアカードに署名しなければならない。その他のスコアカードの記載に関する問題は、審判員に付託される。	矢が標的から抜かれる前に発見されたスコアカードの記載の間違ひは、その標的のすべての競技者 <u>またはエージェント</u> が同意すれば訂正することができる。訂正は、その標的のすべての競技者 <u>またはエージェント</u> が確認し、スコアカードに署名しなければならない。その他のスコアカードの記載に関する問題は、審判員に付託される。
216	2		行射または競技者の行為に関する疑義は、競技会の次の対戦に進む前に審判員に提起しなければならない。	行射または競技者の行為に関する疑義は、競技会の次の対戦に進む前に審判員に提起 <u>され</u> なければならない。
216	3		競技会の日ごとの速報に関する疑義は、不当に遅れることなく審判員に提起され、いかなる場合にも、賞の授与の前に訂正されるよう提起されなければならない。	競技会の <u>成績</u> に関する疑義は、不当に遅れることなく審判員に提起され、いかなる場合にも、賞の授与の前に訂正されるよう提起されなければならない。
216	4		団体戦で、審判員が第211条に記載された違反を示すためにイエローカードを提示した判定は、最終決定となる。 イエローカードに従わずに、チームが行射したとき、そのエンドの最高得点を削除する。	(削除)
217	2		(新規)	<u>標的にあたる矢について審判員が得点を判定した結果は上訴対象とはならない。</u>
217	3		(第215条4から移動)	<u>団体戦で、審判員が第214条に記載された違反を示すためにイエローカードを提示した判定は上訴対象とはならない。</u>
第19章			パラアーチェリー	パラアーチェリー
				(※ターゲットアーチェリー、フィールドおよび3Dラウンドにこれまで記載されていたパラアーチェリー関連の規則はすべてこの章に集約し全面改訂となったことから新旧対比表上は省略)

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
		<b>第3部 フィールドおよび3Dアーチェリー</b>	<b>第3部 フィールドおよび3Dアーチェリー</b>
301		本競技規則に違反する用具の使用が発見された競技者は、得点のすべてを失う。	本競技規則に違反する用具の使用が発見された競技者は、 <u>失格となり獲得した順位を失う。</u>
302	1	弓は、2個のストリングノックの間に、ただ1本の弦を直接掛けるように張り、引くときには、一方の手でハンドル（グリップ）を持ち、他方の手の指で弦を引き、リリースする。	弓は、2個のストリングノックの間に、ただ1本の弦を直接掛けるように張り、引くときには、一方の手でハンドル（グリップ）を持ち、他方の手の指で弦を引き、リリースする。 <u>ただし、パラアーチェリーにおいてクラス分け委員によって認定され、競技者のクラス分けカードに他の記載がある場合はこの限りではない。</u>
302	1 (2)	ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが常に競技者の手または手首に接してはならない。	ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが <u>フルドロー中およびエイミング中</u> は常に競技者の身体のいかなる部分にも接してはならない。
302	6 (1)b	弓以外の物に触れていないこと。	<u>フルドロー中およびエイミング中は常に競技者の身体のいかなる部分にも触れていないこと。</u>
302	7 (1)	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、その長さがノックの溝から計測して2.2cm以内であれば、この制限に該当しない）を超えてはならない。矢のポイントの直径は、9.4mmを超えてはならない。各競技者の矢には、シャフトに競技者の名前またはイニシャルを書き、同じエンドで使用するすべての矢は、同じ色のシャフト、同じ形状および色の組み合わせの羽根、同じ色のノックとし、クレストを付ける時には同じ色の組み合わせの模様とする。	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、 <u>この制限に該当しないが、その長さはノックの溝から計測して2.2cm以内でなければいけない</u> ）を超えてはならない。矢のポイントの直径は、9.4mmを超えてはならない。各競技者の矢には、シャフト <u>またはアローラップ</u> に競技者の名前またはイニシャルを書き、同じエンドで使用するすべての矢は、同じ色のシャフト、同じ形状および色の組み合わせの羽根、同じ色のノックとし、クレストを付ける時には同じ色の組み合わせの模様とする。
303	1 (3)	ブレース付きのハンドル、スプリット・ケーブルは使用することができる。ただし、それらが常に競技者の手または手首に接してはならない。	ブレース付きのハンドル、スプリット・ケーブルは使用することができる。ただし、それらが <u>フルドロー中およびエイミング中</u> は常に競技者の身体のいかなる部分にも接してはならない。
303	1 (6)	(新規)	<u>スタビライザーは使用することができる。ただし、フルドロー中およびエイミング中は常に競技者の身体のいかなる部分にも触れていないこと、および他の競技者の危険や妨げとならないこと。</u>
304	1 (2)	ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが常に競技者の手または手首に接してはならない。	ブレース付きのハンドルは使用することができる。ただし、そのブレースが <u>フルドロー中およびエイミング中</u> は常に競技者の身体のいかなる部分にも接してはならない。
304	6 (1)	振動吸収用のダンパーは使用することができる。 <del>それらは製造業者によってライザーに組み込まれているものか、市販品のダンパーをライザーまたはおもりに直接取り付けられたものを指す。</del> いかなるおもりと衝撃吸収用のダンパーの組み合わせも曲げることなく内径12.2cm（±0.5mm）のリングを通り抜ければならない。 <del>製造業者によってライザーに取り付けられたスタビライザー用の挿入孔の使用は許されるが、角度のついたブラケットやヨネタターを取り付けは許されない。</del> おもりおよびダンパーはライザーのグリップの下と上に付けてもよいが、決して競技者の照準の助けにはならない。	振動吸収用のダンパーは使用することができる。いかなるおもりと衝撃吸収用のダンパーの組み合わせも曲げることなく内径12.2cm（±0.5mm）のリングを通り抜ければならない。おもりおよびダンパーはライザーのグリップの下と上に付けてもよいが、決して競技者の照準の助けにはならない。
304	7 (1)	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、その長さがノックの溝から計測して2.2cm以内であれば、この制限に該当しない）を超えてはならない。矢のポイントの直径は、9.4mmを超えてはならない。各競技者の矢には、シャフトに競技者の名前またはイニシャルを書き、同じエンドで使用するすべての矢は、同じ色のシャフト、同じ形状および色の組み合わせの羽根、同じ色のノックとし、クレストを付ける時には同じ色の組み合わせの模様とする。	シャフトの最大直径は9.3mm（ <u>アローラップが使用される場合、この制限に該当しないが、その長さはノックの溝から計測して2.2cm以内でなければいけない</u> ）を超えてはならない。矢のポイントの直径は、9.4mmを超えてはならない。各競技者の矢には、シャフト <u>またはアローラップ</u> に競技者の名前またはイニシャルを書き、同じエンドで使用するすべての矢は、同じ色のシャフト、同じ形状および色の組み合わせの羽根、同じ色のノックとし、クレストを付ける時には同じ色の組み合わせの模様とする。
305	6 (1)	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、その長さがノックの溝から計測して2.2cm以内であれば、この制限に該当しない）を超えてはならない。 ... 競技者の矢は、シャフトに競技者の名前またはイニシャルを書く。	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、 <u>この制限に該当しないが、その長さはノックの溝から計測して2.2cm以内でなければいけない</u> ）を超えてはならない。 ... 競技者の矢は、シャフト <u>またはアローラップ</u> に競技者の名前またはイニシャルを書く。
306	6 (1)	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、その長さがノックの溝から計測して2.2cm以内であれば、この制限に該当しない）を超えてはならない。 ... 競技者の矢は、シャフトに競技者の名前またはイニシャルを書く。	シャフトの最大直径は9.3mm（アローラップが使用される場合、 <u>この制限に該当しないが、その長さはノックの溝から計測して2.2cm以内でなければいけない</u> ）を超えてはならない。 ... 競技者の矢は、シャフト <u>またはアローラップ</u> に競技者の名前またはイニシャルを書く。
308	3	的を狙わない側の目および／または眼鏡を覆う必要がある場合、プラスチック、フィルムまたはテープを使用することができる。また、アイパッチを使用することができる。	的を狙わない側の目および／または眼鏡を覆う必要がある場合、プラスチック、フィルムまたはテープを使用することができる。また、アイパッチを使用することができる。 <u>覆ったものは明確な目印の線を作ってはならない。</u>
309	3	フィールドおよび3Dラウンドの各行射位置には、 <u>少なくとも2名の競技者が立てる位置</u> にシューティングペグまたはマークを設置する。	フィールドおよび3Dラウンドの各行射位置には、シューティングペグまたはマークを設置する。
310	1	審判員が必要と判断した場合を除き、ファイナルラウンドでの日除けの行為は許可しない。	審判員が必要と判断した場合を除き、ファイナルラウンドでの日除けの行為は許可しない。 <u>日除けの大きさは最大A4サイズとする。</u>

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

	項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
310	2		(新規)	<u>競技者は、行射位置へ前進している間クィーバーから矢を取り出してはならない。</u>
311	2	(1)	フィールドラウンドでは、すべてのラウンドで、各標的に1チームで3射 <del>-(1名1射)</del> を行射する。	フィールドラウンドでは、すべてのラウンドで、各標的に1チームで3射を行射し、 <u>各部門別のペグから1名1射を行射</u> する。
311	2	(2)	3Dラウンドでは、すべてのラウンドで、各標的に1チームで4射 <del>-(1名1射)</del> を行射する。	3Dラウンドでは、すべてのラウンドで、各標的に1チームで4射を行射し、 <u>各部門別のペグから1名1射を行射</u> する。
314	2		チームに帯同するコーチ1名は、シューティングペグに近づくことができるが、採点のために標的に行くときには離れた位置にいないといけない。 <del>「コーチボックス/エリア」が設けられている場合、</del> コーチは行射が行われている間、このエリアに留まらなければならない。 … 女子、男子またはU21チームのコーチは、同一所属団体の他のチームに合流することはできない。 … ファイナルラウンドの間、同一所属団体の男女のチームのコーチ間で連絡を取ることはできない。	チームに帯同するコーチ1名は、シューティングペグに近づくことができるが、採点のために標的に行くときには離れた位置にいないといけない。 コーチは行射が行われている間、 <u>主催者が指定した区域</u> に留まらなければならない。 … 女子、男子またはU21チームのコーチは、同一所属団体の他のチーム <u>(男子、女子、U21、等)のコーチ</u> をすることはできない。 … ファイナルラウンドの間、同一所属団体の <u>他</u> のチームのコーチ間で連絡を取ることはできない。
316			予選ラウンドおよびイリミネーションラウンドでは、グループは別々の標的から同時に開始するように割り当てられ、開始した標的の前の標的でラウンドを終了する。	予選ラウンドおよびイリミネーションラウンドでは、グループは別々の標的から同時に開始するように割り当てられ、 <u>そのコースで所定数の標的を行射する</u> 。
319	4		(新規)	<u>イリミネーションラウンドにて2つのマッチが同じ標的を行射するグループとなった場合の行射の優先順位は以下の通りとする。</u> <u>(1)上位の選手がいるマッチが常に先に行射する。</u> <u>(2)同部門で年齢区分が異なる場合は最も高い年齢区分から先に行射する。</u> <u>(3)同部門の選手で性別が異なる場合は男性から先に行射する。</u>
319	5		(新規)	<u>セミファイナルにて4人1グループで行射を行う場合、最高順位の選手がいるグループが先に行射し、他のグループは2グループ目としてすべての標的で行射する。メダルマッチではブロンズメダルマッチに出場する競技者が最初にすべての標的で行射し、続いてゴールドメダルマッチの行射を行う。</u>
319	6		(新規)	<u>予選ラウンドおよびイリミネーションラウンド、ファイナルラウンドでは競技者はマッチプレイチャートおよびスコアカード通りの位置から行射する。</u>
325	10	(1)	(新規)	<u>チームはどの競技者から行射するか選択できる。複数の競技者が同じペグから行射する場合(フィールドでは赤、3Dでは青)、全ての競技者は所定の行射位置に立ち、同時に矢をつがえることができるが、弓を上げて射つことができるのは一人の競技者のみである。</u>
325	10	(2)	(新規)	<u>チームが青ペグより赤ペグを先に行射することを選択した場合、赤ペグから行射する競技者は、他のすべての選手とコーチが赤ペグの後ろを通過するまでに、矢をクィーバーから引き抜いてはならない。</u>
329	1		<del>グループ内に反対がなければ、競技者Aがそのグループを統率する。2名の競技者BおよびCがスコアラーとなり、競技者Dが的の申孔に印を付ける。そのグループの全競技者が同意すれば変更することができる。また、3名の競技者ではグループリーダーが的の申孔に印を付ける。</del> フィールドラウンドでは、そのグループの競技者は得点帯のすべての的中孔に印を付け終わるまで標的を離れてはならない。	フィールドラウンドでは、そのグループの競技者は得点帯のすべての的中孔に印を付け終わるまで標的を離れてはならない。
329	1	(1)	ファイナルラウンドでは、審判員が各グループに同行し得点記録を管理する、または各標的で各グループを待つ。 <u>主催者は、そのグループの競技者の最新得点を表示する携帯スコアボードを携行する係員を用意する。メダルマッチでは2枚のスコアボードが用意され、1つはゴールドメダルマッチ用、1つはブロンズメダルマッチ用とする。</u>	ファイナルラウンドでは、審判員が各グループに同行し得点記録を管理する、または各標的で各グループを待つ。
329	1	(2)	3Dラウンドでは、スコアリングゾーンが標的の絵に示される。	(削除)
330	4		フィールドラウンドで3本、および3Dラウンドでは1本または2本(ラウンドによる)を超えた同一競技者の矢が、標的面または標的付近で発見された場合、フィールドラウンドおよび団体戦では最も低い得点の3本の矢だけを、3Dラウンドでは最も低い得点の矢(または予選ラウンドでは最も低い得点の2本)を記録する。	フィールドラウンドで3本、および3Dラウンドでは1本または2本(ラウンドによる)を超えた同一競技者の矢が、標的面または標的付近で発見された場合、フィールドラウンドおよび団体戦では最も低い得点の3本の矢だけを、3Dラウンドでは最も低い得点の矢(または予選ラウンドでは最も低い得点の2本)を、 <u>フィールドミックス団体戦および3D団体戦、3Dミックス団体戦では4本だけを記録する。</u>
332			フィールドラウンドでは、スコアカードにスコアラーと競技者が署名することによって、競技者がそれぞれの矢の得点(素点)、合計得点(両方のスコアカードが同じであること)、5点数、6点数(3Dラウンドでは10点数、11点数)に同意したことを示す。	<u>競技者は自らのスコアカードに最終的な責任を持つ。</u> スコアカードにスコアラーと競技者が署名することによって、競技者がそれぞれの矢の得点(素点)、合計得点(両方のスコアカードが同じであること)、5点数、6点数(3Dラウンドでは10点数、11点数)に同意したことを示す。

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
332	1	主催者は署名、合計点、 <del>フィールドラウンドでは</del> 5点数、6点数(3Dラウンドでは10点数、11点数)の未記入の、または計算間違いのあるスコアカードを受領または記録する必要はない。 … <del>競技者は自分のスコアカードに対して最終的な責任を有し、手書きのスコアカードが提出されていない、もしくは競技者の署名がなく提出され、そのとき修正されていなければ、その競技者の記録(該当するステージの個人、団体およびミックス団体)は競技委員長により無効となる。</del> スコアカードの修正は、その競技会の次のステージまでに行わなければならない。合計得点に間違いがあった場合、	主催者は署名、合計点、5点数、6点数(3Dラウンドでは10点数、11点数)の未記入の、または計算間違いのあるスコアカードを受領または記録する必要はない。 … (削除)
第24章		(第336～339条は第25章規則違反の罰則等に移動)	(削除)
335	6	逆光の場合、グループの他のメンバーが最大A4サイズ(またはラージレターサイズ、30×20cm)の日除けを準備することができる。または、主催者が準備をしなければならない。	<u>日除けは最大A4サイズを準備することができる。ただし、ファイナルラウンドでは審判員が使用を認めた場合に限り使用できる。</u>
第25章		規則違反の罰則	規則違反の罰則等
338		本競技規則に違反した用具の使用が認められた競技者は、その得点が取り消される。	本競技規則に違反した用具の使用が認められた競技者は、 <u>失格となり獲得した順位を失う。</u>
339	1	スポーツマンにふさわしくない行動は許されない。そのように行動した競技者、または競技者にその行動を促進させたときみなされる者は失格となり、 <del>さらにその競技者は、それ以後の競技会への出場が一時的に停止されることがある。</del>	スポーツマンにふさわしくない行動は許されない。そのように行動した競技者、または競技者にその行動を促進させたときみなされる者は失格となる。
342		繰り返し警告を受け、さらに以下の競技規則に違反し続け、または担当審判員の決定および指示(これには申し立てができる)に従わない競技者は、第340条により処分する。	繰り返し警告を受け、さらに以下の競技規則に違反し続け、または担当審判員の決定および指示(これには申し立てができる)に従わない競技者は、 <u>第339条</u> により処分する。
342	2	コース、練習会場およびウォームアップエリアは禁煙とする。	コース、練習会場およびウォームアップエリアは禁煙( <u>V A P E、電子タバコを含む</u> )とする。
342	6	弓を引き戻す時、競技者は、偶然にリリースしたと審判員が判断しても、矢がセーフティゾーンまたは安全管理用設置物(オーバーショットエリア、ネット、壁等)を越えるようなやり方を行ってはならない。	<u>競技者は、弓を引く時および引き戻すとき、いかなる場合であっても、矢をセーフティゾーンまたは安全管理用設置物(オーバーシュートエリア、ネット、壁等)を越えると審判員が判断するような引き方、戻し方をしてはならない。競技者は、標的に向けてのみ狙い引かなければならない。</u>
342	7	(第339条より移動)	<u>競技に参加していないチーム役員は、審判員に競技者エリアに入るよう求められない限り、観客エリアに留まらなければならない。</u>
		<b>第4部 その他のアーチェリーラウンド</b>	<b>第4部 その他のアーチェリーラウンド</b>
第4部			(※章立てとWA規則参照番号の変更のみ)
401			<u>アウトドアラウンド</u>
402			<u>インドアラウンド</u>
403			<u>スタンダードラウンド</u>
404			<u>デュアルマッチラウンド</u>
405			<u>クラブラウンド</u>
406			<u>フィールドラウンド</u>
407			<u>フォレストラウンド</u>
408			<u>クラウトアーチェリー</u>
409			<u>フライトアーチェリー</u>
410			<u>ランアーチェリー</u>
411			<u>スキーアーチェリー</u>
		<b>第5部 付則</b>	<b>第5部 付則</b>
503			<u>2026年 4月 1日 改訂増補</u>
		<b>ユニフォーム等掲載商業広告規程</b>	<b>ユニフォーム等掲載商業広告規程</b>
第3条	(1)	上衣、競技シャツ、帽子に限定する。	上衣、競技シャツ、帽子、 <u>チェストガード</u> に限定する。
第3条	(2)	新規	<u>チェストガード 80cm<sup>2</sup></u>
		<b>公認審判員規程</b>	<b>公認審判員規程</b>
第6条			(※審査および認定の手続きを全面改訂したため対比表上は省略)
第7条	1	(3) 本連盟が主催または公認した競技会の審判員を5回以上経験し、優秀と認められた者。	本連盟が主催または公認した競技会において審判員またはD O Sの任に直近 <u>5年以内で5回以上従事した者。</u>
第7条	1	(新規)	<u>本連盟が主催する1級公認審判員新規認定講習会を受講し、当該講習会において実施される認定検定試験に合格した者。</u>
第7条	2	(3) 加盟団体が主催または公認した競技会の審判員を3回以上経験し、優秀と認められた者。	加盟団体が主催または公認した競技会において審判員として <u>3回以上従事した者。</u>
第7条	2	(新規)	<u>加盟団体が主催または後援する審判講習会の課程を修了し、当該講習会において実施される認定試験に合格した者。</u>
第7条	3	(2) 年齢が18歳以上で、本連盟の会員登録を1年以上継続していること。	年齢が <u>16</u> 歳以上で、本連盟の会員登録者であること。
第7条	3	(3) 加盟団体が主催または後援する審判講習会の課程を修了した者。	加盟団体が主催または後援する審判講習会の課程を修了し、 <u>当該講習会において実施される認定試験に合格した者。</u>
第15条			<u>2026年 4月 1日 改訂増補(施行:2027年 4月 1日)</u>

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
		<b>審判員服装規程</b>	<b>審判員服装規程</b>
第3条		<del>上衣の左胸には、公認審判員であることを表象するエンブレムを付けるものとす。</del> 帽子は、前面にツバを有するキャップ型で、色は赤色とし、特に公認審判員の資格を示す必要のあるときは、帽子前面または側面にその資格に応じたエンブレム（上衣につけたものと同じエンブレム）を貼付するものとする。	帽子は、前面にツバを有するキャップ型で、色は赤色とし、特に公認審判員の資格を示す必要のあるときは、帽子左側面にその資格に応じたエンブレムを貼付するものとする。
第6条			<u>2026年 4月 1日 改訂増補</u>
		<b>日本記録の承認および管理要領</b>	<b>日本記録の承認および管理要領</b>
1		(公社)全日本アーチェリー連盟(以下本連盟という)で公認する日本記録、日本U21記録、日本U18記録、日本50+記録および日本国際記録は本連盟競技規則第121条(記録の種類)のとおりとする。	(公社)全日本アーチェリー連盟(以下本連盟という)で公認する日本記録、日本U21記録、日本U18記録、日本50+記録は、 <u>日本国籍を有し、本連盟に会員登録している競技者による記録とする。</u> 日本国際記録は、 <u>国籍を問わず、本連盟に会員登録している競技者による記録とする。</u> これら記録の区分および基本的取扱いは、 <u>本連盟競技規則第121条(記録の種類)に定めるところによる。</u>
2		(新規)	<u>団体記録において、構成員に1名以上の外国籍選手が含まれる場合、その記録は日本国際記録として扱う。</u>
2	③	中学生によって構成される団体(チーム) (所在する単一中学校の在學生で編成された団体)	中学生によって構成される団体(チーム) (所在する単一中学校の在學生で編成された団体、 <u>都道府県または市区町村アーチェリー協会(連盟)、アーチェリークラブチーム、スポーツ少年団その他の地域団体に所属する中学生で編成された団体</u> )
2	④	小学生によって構成される団体(チーム) (所在するスポーツ少年団およびクラブチームに所属する小学生で編成された団体)	小学生によって構成される団体(チーム) ( <u>所在する単一小学校の在學生で編成された団体、都道府県または市区町村アーチェリー協会(連盟)、アーチェリークラブチーム、スポーツ少年団その他の地域団体に所属する小学生で編成された団体</u> )
3	②	(新規)	<u>本連盟が日本記録として管理する種目・カテゴリーは、本連盟が国内で実施し、かつ管理対象として定めたものに限る。</u>
3	③	(新規)	<u>管理対象として新たに追加された種目またはカテゴリーについては、管理開始日を定め、管理開始日以降に実施された公認競技会の得点記録を新記録の対象とする。</u>
5	③	上記以外の本連盟が公認する競技会で新記録が樹立された場合、競技会を主催または主管した団体が新記録承認申請書(競技・様式第4号)にスコアカード(コピー可)、競技会プログラムおよび成績表を添えて本連盟に申請する。	<u>上記以外の本連盟が公認する競技会で新記録が樹立された場合、申請は次の手順によるものとする。</u> a. <u>競技者本人は、競技会終了時点で日本記録が樹立されたことを確認した場合、主催者に対して新記録承認申請の実施を依頼するものとする。</u> b. <u>主催者(競技委員長)は、競技者から新記録承認申請の依頼を受けた場合、新記録承認申請書(競技・様式4号)にスコアカード(コピー可)、競技会プログラムおよび成績表を添えて、本連盟に申請する責任を負う。</u> c. <u>主催者が作成したスコアカード・成績表等の内容の正確性については、主催者が責任を負うものとする。</u>
5	④	新記録承認申請書は競技会終了後10日以内に送付すること。	<u>新記録承認申請書は記録樹立日から30日以内に本連盟に到達していなければならない。合理的な理由なく申請期限を過ぎた場合は受理しないものとする。ただし、申請期限の経過は当該得点記録の事実を否定するものではない。</u>
5	⑤	新規	<u>日本記録(およびU21/U18/50+記録)の認定にあたり、競技者は日本国籍を証明する書類を提出しなければならない。</u>
5	⑥	新規	<u>国籍確認は、記録申請時に行うものとする。</u>
5	⑦	新規	<u>国籍情報は本連盟が厳重に管理し、記録認定以外の目的には使用しない。</u>
9	①	日本国内で開催された公認競技会において、本連盟に会員登録を行っている外国籍の選手および海外からの招待選手が個人戦・団体戦で日本記録を更新した場合、日本国際記録として公認を行い、日本記録がその国際記録を更新するまで管理を行う。	<u>日本国際記録は、国籍を問わず、本連盟に会員登録している競技者が日本国内で開催された公認競技会において樹立した記録のうち、当該種目の日本記録を上回る記録を対象として管理する。</u>
9	②	新規	<u>日本記録が更新された場合、当該種目の日本国際記録は、日本記録が日本国際記録を上回るまでの間、参考記録として管理するものとし、日本記録が日本国際記録を上回った時点で日本国際記録の管理を終了する。</u>
9	③	団体(チーム)とは、1団体(チーム)に1名以上の外国籍選手が含まれていれば、日本国際記録として管理を行う。	<u>団体(チーム)に外国籍選手が1名以上含まれる場合、その団体が樹立した記録が日本記録を上回るときは、日本国際記録として管理する。</u>
9	④	記録の申請および承認は日本記録と同様の処理とする。	<u>日本国際記録の申請および承認手続きは、日本記録の申請および承認に準じて行うものとし、記録樹立日から30日以内に本連盟に到達していなければならない。</u>
9	⑤	新規	<u>外国籍の競技者が日本で生まれ育ち、日本の教育を受けている場合であっても、日本国籍を有しない限り日本記録の対象とはならず、日本国際記録として扱う。</u>
10	⑤	日本国際記録(外国籍→留学生)	日本国際記録(外国籍)
10		新規	<u>日本国際記録は、日本記録を上回っている期間に限り、日本記録一覧表とは区別して表示するものとする。</u>

## 2026-2027競技規則 新旧対比表

項	号	2024～2025年版(旧)	2026～2027年版(新)
			<u>2026年 4月 1日 改訂増補</u>
		<b>アンチ・ドーピング規則</b>	<b>アンチ・ドーピング規則</b>
		世界アンチ・ドーピング規程 2024禁止表国際基準 <a href="https://www.playtruejapan.org/entry_img/2026_prohibited_List_jpn.pdf">https://www.playtruejapan.org/entry_img/2026_prohibited_List_jpn.pdf</a>	世界アンチ・ドーピング規程 <u>2026</u> 禁止表国際基準 <a href="https://www.playtruejapan.org/entry_img/2026_prohibited_List_jpn.pdf">https://www.playtruejapan.org/entry_img/2026_prohibited_List_jpn.pdf</a>